

# 平成26年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

### 東海ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1** 登録基幹技能者が建設現場で行う施工管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請技術者に対して、施工法等の提案や調整を行う
2. 他の現場の技術者に対して、技能者の適切な配置、作業方法、手順等の構成を行う
3. 他職種の職長等に対して、前工程・後工程に配慮した連絡調整を行う
4. 部下の技能者に対して、施工に係る指示・指導を行う

**問題 2** 左官技能者の職階に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設現場における直接施工に従事する左官技能者は、5段階に分類できる
2. 左官技能者は、初級技能者、中級技能者、上級技能者、登録基幹技能者で分類できる
3. 上級技能者は、職種に対応した資格を有し、優れた直接的施工能力を持ち、担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理と作業の指揮・指導を行う、基幹技能者になりうる資格を有するものである
4. 基幹技能者は、建設現場の生産性の向上、建設生産物の品質の確保を図ることができるものである

**問題 3** 建設現場に備えておかななくてはならない施工体制台帳に記載できる事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下請負人の現場代理人名
2. 工事名称等
3. 下請負人の会社名等
4. 下請負人の登録基幹技能者名および種類等

**問題 4** 国土交通省各地方整備局から提出された工事の成績評定点（平均）において、登録基幹技能者の配置効果が現れているものに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工管理
2. 安全対策
3. 出来ばえ
4. 近隣対策

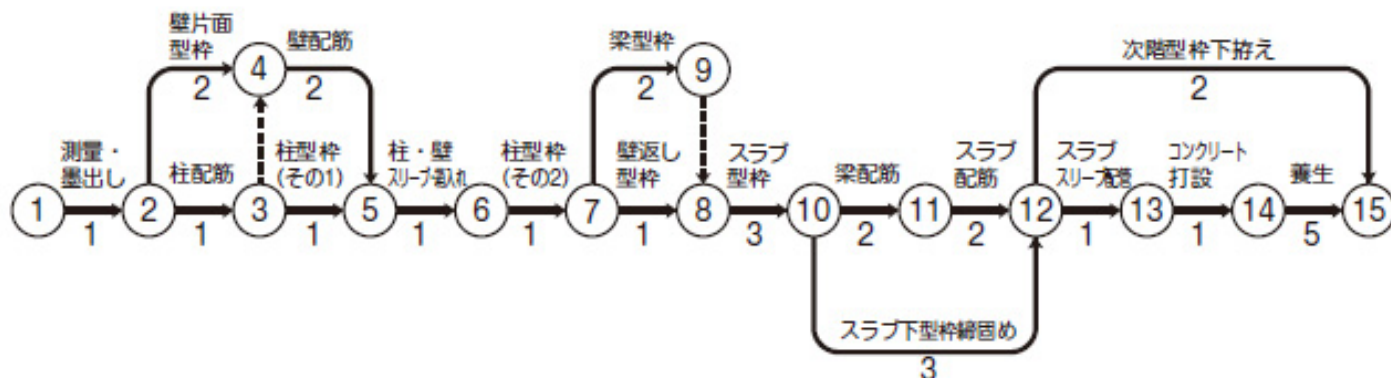
問題5 元請のゼネコンの登録基幹技能者における優秀職長または優秀職長手当制度に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、日建連の提言に対する呼応が挙げられる
2. 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、防衛庁や金融庁の取組みに対する呼応が挙げられる
3. 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、有資格者であることが一定の能力を担保している目安となっていることが挙げられる
4. 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、技能者自身が資格取得を目指すことによる更なる能力の向上を目的とすることが挙げられる

問題6 OJT教育における指導方法において、若者に対して「自己啓発を行わせる」ことの内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 若者たちの仕事の難易度を踏まえて、初期の段階の目標を決める必要がある
2. 若者たちのそれぞれの目標に対応して、個別のバックアップが必要である
3. 若者たちが実施可能な指導方法と内容であることが重要である
4. 若者たちの知識の習得と体験の組み合わせをつくることが重要である

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、ネットワーク式工程表である。

2. この工程表に示されている



において、「次期型枠下拵え」

は、「スラブ/スリーブ配管」や「コンクリート打設」および「養生」の各作業の並行作業である。

3. この工程表の○印は、結合点を示している。

4. この工程表における工期は、14日である。

問題8 建設業法遵守ガイドラインに記載されている項目に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 敷地条件の提示
2. 指値発注
3. 書面による契約締結
4. 不当に低い請負代金

問題9 建設工事標準下請解約約款の「建設工事下請契約書」に記載されている内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 着工および完成の日付
2. 前払い金や部分払い金および引渡し時の支払い金の時期と方法
3. 調停人
4. 建築主の金銭保証人住所および氏名

問題10 ブレーンストーミング(BS)のルールに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 発言発案の一切に関して、良い悪い等の批判をしてはならない。
2. アイデア発想は、自由奔放にする。
3. 発言・アイデアの量ではなく、質を求める。
4. 他人のアイデアをヒントにした改善便乗は、歓迎する。

問題11 住宅瑕疵担保責任保険設計施工基準の記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 通気構法において、外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111 に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能および防水性能を有するものとする。
2. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
3. 直張りの防水紙は、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートとする。
4. 外壁開口部のサッシ周りとは防水紙は、防水テープを用いて密着させることとする。

問題12 セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタル張りタイルの下地は、木鏝仕上げにする。
2. タイル接着剤張りの下地は、刷毛引き仕上げにする。
3. 壁紙張り下地、防水下地は、金鏝仕上げにする。
4. 吹付け下地等の刷毛引き仕上げは、木鏝でならした後、金鏝で軽く押さえ、刷毛目を入れて正しく粗面に仕上げる。

**問題 1 3 左官下地と塗り層との寸法変化（ムーブメント）に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 熱冷ムーブメントをサーマルムーブメントという。
2. 相対ムーブメントをディファレンシャルムーブメントという。
3. 相対ムーブメントとは、異なった材料の境界面でおきる変形挙動をいう。
4. 熱冷ムーブメントとは、湿潤と乾燥の繰り返し変化によっておきる変形挙動をいう。

**問題 1 4 JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 内装せっこう系厚付け仕上塗材 — 内装厚塗材G
2. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材E
3. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材C
4. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W

**問題 1 5 現場調合セメントモルタル塗り工法の塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 1回の塗り厚は、6mm を標準とし、9mm を限度とする。
2. ALC パネル下地の総塗り厚は、25mm 程度を上限とする。
3. 仕上げ厚は、天井、庇を 12mm 以下とし、その他は 25 mm以下とする。
4. 左官用軽量セメントモルタルの総塗り厚は、10mm 以下とする。

**問題 1 6 せっこうボード下地に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 左官工事の適用下地としては従来から使用されているせっこうラスボード（GB-L）に加えて、せっこうボード（GB-R）がある。
2. せっこうラスボード下地は、物理的な引っ掛かりがある。
3. せっこうボード用の接合材が腐食すると、発錆による汚れや、体積の膨張によるひび割れの発生、仕上げ材の剥離等の不具合が生じる場合がある。
4. せっこうボードは、厚塗りには適している。

問題 17 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力は50～150N/mm <sup>2</sup> であり、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクサンダーあるいは、カップサンダーによって、コンクリート表面に目粗し、水洗いにより表面に付着した粉塵を除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は容易であり、埃や音の発生がある。施工にばらつきが出やすいので、見本などを作成し管理することが重要である。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	刷毛あるいは、左官用ブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、品質を一定にすることが至難である。ブラシ掛けの後は水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面への凹凸を付与し、それがセメントモルタルに食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 18 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
2. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。
3. 下地の吸水大 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
4. 塗り厚不同 — ひび割れ — つけ送りで調整。

**問題 19 施工計画のおおまかな流れに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 施工計画立案にあたり、まず発注者との契約条件、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件等について調査を行う。
2. 基本計画を作成する前に、品質管理計画、安全管理計画、環境保全計画等、工事管理のための諸計画を作成する。
3. 主要工種について施工法や施工手順等、技術面および経済面から比較検討を行い基本計画を作成する。
4. 基本計画に従って各工種の施工方法および施工順序の検討、施工機械の選定や人員配置、サイクルタイム等を決定する。

**問題 20 揚重計画に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建築および他業者と揚重の週間工程表を作成し、毎日の打ち合わせの中で再確認する。
2. 揚重機器の効率を考慮して計画する。
3. 梱包材の搬出を考慮して計画する。
4. どのような資材にも対応できる揚重機器を考慮して計画する。

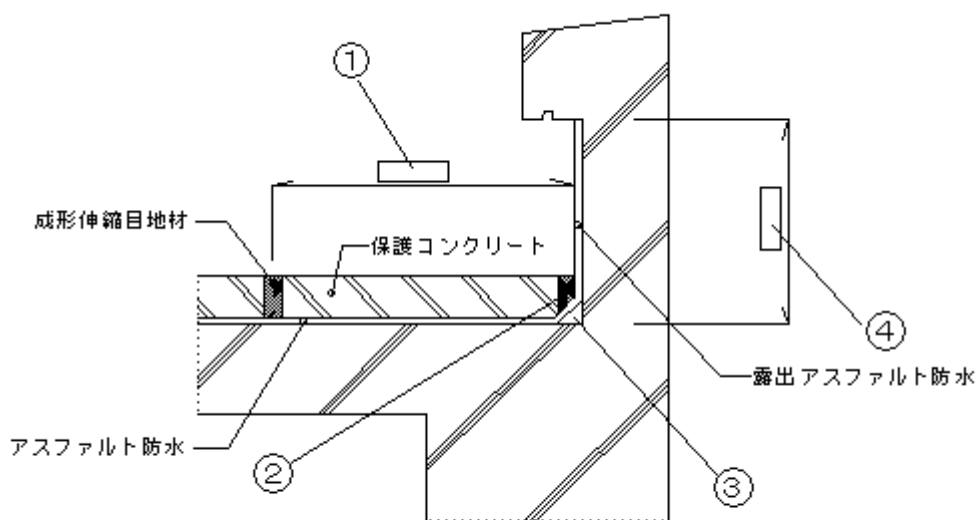
**問題 21 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設工事費は、工事目的物を作るのに直接要する費用であり、直接工事費のほかに、それを実現させるためにかかる諸々の間接的経費から構成されている。
2. 直接仮設費は、各工事種目に共通の仮設に要するものである。
3. 現場管理費は工事施工に当たり、工事現場を管理運営するために必要なものである。
4. 一般管理費は、受注者の継続運営に必要な費用としての一般管理費（本支店経費）と付加利益のことである。



問題 2 2 下図のような、パラペット立上り部での、屋上アスファルト防水および保護コンクリートの施工について、最も不適当なものはどれか。

1. ①の寸法は、一般的に立上りコンクリートより 600 mm 程度に取り付ける。
2. ②のように、保護コンクリートと立上りコンクリートとの取り合い部は防水材料を傷めないよう成形緩衝材を取付ける。
3. ③のように、アスファルト防水は直角に折れ曲がる入隅施工が困難であり、また、防水層の切れを保護するためにもセメントモルタル等で面を取る必要がある。
4. ④の部分の高さは、防水性能を維持するために、300 mm 未満にすることが望ましい。



パラハット部分詳細図

**問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡することをいう。
2. 建設業の安全対策が難しい理由の一つとしては、作業内容が日々変化するため作業員の作業の慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。
3. わが国の建設業における近年の死亡者数は、年に 1,500 人前後である。
4. 建設工事全体の死亡事故の型別でみると、墜落による事故が 45%と圧倒的に多い。

**問題 2 4 法で定められた建設現場における安全管理についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。
2. 作業主任者の配置が必要な作業としては、型枠支保工の組立または解体の作業がある。
3. 複数業者が混在する現場の 1 次下請けや 2 次下請けの業者は、安全衛生責任者を選任する必要がある。
4. 複数業者が混在する現場で労働者数の合計が 200 人の場合、1 人の安全衛生責任者を選任すれば良く、特に統括安全衛生責任者を選任する必要はない。

**問題 2 5 各種労働災害防止対策についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. リフォーム工事では、電気やガスなどが既に設置されているので安全作業に支障をきたすことはない。
2. 熱中症予防対策としては、WBGT（暑さ指数：湿球黒球温度）値を使用することが有効である。
3. 既存建築物は、石綿が使用されているものが多く、その建築物の解体工事では石綿による健康障害防止対策を講じる必要がある。
4. 高さ 2m 以上の所で足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置しなければならない、これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。